



「地域とともに」 千葉市青少年サポートセンター北分室
 担当 所長 補佐 飯山 成利

今年度より青少年サポートセンター北分室に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。新年度が始まり2ヶ月が過ぎました。5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行され、以前の活動が少しずつ回復してきているのではないのでしょうか。

さて、総務省統計局より「人口推計」が発表されましたが、それによると、日本の子ども(14歳以下)の人口は2023年4月1日時点で1436万人(概算値)となっていました。これは昨年の同時期と比べ30万人の減少で、1982年から42年連続の減少となります。子どもの総人口に占める比率は11.5%で前年比マイナス0.2%。また、統計記録のある1950年以降では、過去最低値を示しており、少子化が大きく懸念されています。一方で、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化して

おり、中高生が被害・加害両方に関わる事件が多く報じられています。子どもの人口が減少傾向にある中、子どもたちのかかえる問題は、多種多様で、難しい問題が増加しています。

まだ短い期間の勤務ではありますが、補導活動や相談活動をはじめ、様々な事業に関わらせていただきました。関係団体を含め、地域の多くの方々に青少年の育成のために、携わっていただいていることを改めて実感しているところです。

「子どもの未来は、地域の未来」

「家族と学校だけで子どもを教育するのではなく、地域みんなで育てていく」
 学校に勤務していた頃、地域の方々から伺った言葉を改めて思い出しました。

今後、青少年サポートセンターの一員として、子どもたちの未来のため、地域の方々や関係団体の方々との連携を取り、微力ながら努力していきたいと思っております。

【不審者等情報】

《令和5年4月・5月》

| 区分 | 発生日時 | 場所 | 内容 |
|-------|---------------------|------|------------------------------------------------------------------------|
| 後つけ | 4月下旬(木) 午後6時30分頃 | 作新台 | 下校途中、男に後をつけられた。男は40~50歳代位、身長170cm程度、細身。作業服を着用。 |
| 暴行 | 4月下旬(月) 午後3時10分頃 | おゆみ野 | 下校途中、男に声をかけられ、無視したところ背負っていたランドセルを押された。男は20歳位。黒いキャップ、眼鏡、水色の上着、黒いズボンを着用。 |
| つきまとい | 5月中旬(月) 午後3時50分頃 | 桜木町 | 下校途中、男に追いかかけられ、腕をつかまれそうになった。男は50歳位。身長160cm程度、小太り。灰色の帽子と作業服を着用。 |

不審者に出会ったら、すぐに警察に通報しましょう!

声をかけられる・体に触れられる・腕をつかまれる・露出・盗撮など、不審者・変質者に出会ったり目撃したりしたら、躊躇せず(ちゅうちよ)に110番通報を!



青少年サポートセンターでは、ホームページを開設しています。ご覧ください。

※千葉市青少年サポートセンターは市内に5か所あります。

☞QRコードからアクセス

(中央・東分室・西分室・南分室・北分室)

子どもの自殺を防ぎたい！

新しい生活が始まって一か月が過ぎ、ゴールデンウィークが終わったころ、心と体に不調を感じ、不安になったり悲しくなったり、何もやる気がなくなったりしてしまう五月病。大人だけではなく、現在、小中高生にも広がっています。厚生労働省の統計では、全国で小中高生の自殺者が、令和4年度に514人と、過去最高になったとあります。月ごとに見てみると、5月40人、6月62人となっています。同省によると、自殺に至るまでの間に「睡眠」「食欲」「体調」「行動」などの面で、心のSOSのサインが見られるとされています。もしも身近にいる子どもたちが、いつもと様子が違う、学校へ行きたがらない、寝ていないような様子があるなど、何かおかしいと感じたら、まわりの大人が、ゆっくりと子どもとの時間をとって傾聴していくことが求められます。子どもの変化に敏感であるためには、家族や先生、相談機関がアンテナを高くする必要があると考えます。

昨年度に自殺した中高生の約2割に当たる93人の自殺動機は「不詳」です。誰にも相談できず、自分だけで抱えてしまい、死を選んでしまう子どもが多く存在する悲しい現実があることがわかります。令和4年度から、高校で実施されている新学習指導要領では保健体育で「精神疾患の予防と回復」の項目が復活しました。知識を身に付けることで、自身の心の不調に気づき、早期対応ができるようになれば、自殺の歯止めにもつながると期待されています。心の病気は誰にでもどんな年代でも起こりうるということだという認識を持つことが重要です。また、うつ病などの発症には、生活習慣が与える影響が少なからずあることも、注目すべき点です。

子どもたちの世界は年々複雑化していきませんが、私たちは「話をきいてくれる存在」として、子どもたちが心を開いてくれるよう、根気強く「愛のひと声」をかけていきたいと思えます。

以下は、千葉市での相談窓口です。ご活用下さい。

♡こころと命の相談室（対面での相談・予約）043-216-3618

♡こころの健康センター（平日日中の相談）043-204-1582

♡夜間・休日の心のケア相談（夜間・休日の電話相談）043-216-2875

♡メンタルヘルスチェック パソコンやスマホから「こころの体温計」で検索してください。

気軽にこころとからだの疲れをチェックできます。



青少年の1日のインターネット利用時間について

インターネットやゲームの世界で長時間過ごし、家族や友人と過ごす時間の方が少ない子どもも見受けられます。どの年代でもインターネットの平均利用時間は増加傾向にあります。インターネットで何をしているのか、どんな使い方をしているか、大人が関心をもって、声をかけ、子どもと話をしていきましょう。利用の仕方次第で「誰かを攻撃する凶器」にも「この上なく便利なもの」にもなるインターネットを上手に使いこなせるよう、子どもの成長段階に合わせて、大切なことを伝えていきましょう。

<青少年の1日のインターネット平均利用時間>

| | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 小学生 (10歳以上) | 93.4分 | 97.3分 | 118.2分 | 129.1分 | 146.4分 | 207.0分 | 213.7分 |
| 中学生 | 138.3分 | 148.7分 | 163.9分 | 176.1分 | 199.7分 | 259.4分 | 277.0分 |
| 高校生 | 207.3分 | 213.8分 | 217.2分 | 247.8分 | 267.4分 | 330.7分 | 345.0分 |

総務省 令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査より

青少年サポートセンター ネット安全教室

青少年サポートセンターでは、児童生徒・保護者、地域関連団体等を対象に、ネット安全教室を開催しています。インターネットに潜む具体的な危険や、個人情報の保護等について啓発しています。講師派遣のご要望は、管轄の青少年サポートセンター各分室へご相談ください。

